

宮本 美佐子さん



子どものころ伝記ものを読んでから本が好きになり、本をよく読むようになりました。大人になって子どもが生まれてからは、子育て関係の本を読んでいます。一つだけの子育て論、教育論ではなく、多くの理論を本から取り入れることで、自分なりの子育てのやり方を見つけることができました。とても子育ての負担が軽くなった気がします。

最近、子どもたちと一緒に図書館に来ています。子どもたちも楽しんで本を選んでいきますね。

わたしのこの一冊！
ヘレンケラー
やっぱり伝記ものです。ヘレンケラーやナイチンゲールの本は何回も読みましたね。



本の思い出

図書館に来た人に、本の思い出とオススメの本を聞いてきました。

石崎 友子さん



おおづ図書館の近くに住んでいるので、小学生のころからずっと通っています。司書のお姉さんに会うことが楽しくて、仲良くなっているいろんな本を紹介してもらいました。

今は高校の美術科で勉強しています。絵の教室を開くことや絵本を作ることが夢です。子どものころあこがれていた魔法使いのようにみんなを幸せにできるような仕事がしたいと思っています。

わたしのこの一冊！

魔法使いの秘密パーティーほか
魔法使いの道具の作り方が載っている本です。本を好きになったきっかけになっているのでとても思い入れがあるんです。



社長として、そして人間として

同社の安全管理は、特に徹底し、気をつけていると言います。残業も月45時間を超えたら、一人ひとりの声を聞くなど、社員を守りたいという気持ちが強く感じられます。

社員にも「おまえが事故で死んだりしたら、おれは辛くて会社を継続できないかもしれない」と話すなど、いつも社員の安全を第一に考えています。

さらに環境への取り組みも行われており、環境省が制定する「エコアクション21」の認証も受けています。精密部品加工業界の中でも他社に先駆けて「産業廃棄物となるキリコ（切削くず）」をリサイクルする「キリコ圧縮機」6台を

設置したり、町の「環境美化の日」に会社周辺のゴミ拾いを全社員で実施したりしています。

人間も会社も「必要とされなかったら淘汰される」その思いで会社を操業しています。必要とされているときは会社として存続できる。人として生きていける。この考え方も本から学びました。

「本というものは、持っていることで心が豊かになり、読むことで勇気を与えてくれます。本や親は、人生の道しるべです」

読書によって、池松さんの人生も、(株)池松機工の発展も支えられてきました。それはこれからも変わることはないでしょう。

池松さん
オススメの一冊



君に成功を贈る 中村天風著
人生を成功させるための哲学本です。多くの言葉や考え方が書いてあります。この本から得たことは、わたしの人生に多く生かされています。ぜひ皆さんに読んでもらいたい本ですね。

本がわたしを助けてくれた

その時、「心も体もボロボロだった」という池松さんは、多くの本を読んだといいます。本を読むことで答えを見い出そうと焦っていた時期でした。

物が上から下に落ちていくこと、太陽が東から西に沈んでいくことなどの自然の摂理を学びました。人間が生きていくということには、どのような意味があるのか。本を読み続けるうちに、少しずつ心が楽になっていきました。

よくよく考えれば、池松さんは仕事に対して『結果』をととても気にしていたことに気づいたのです。『結果はどうしようもない』『自分の力を過信しない』肩の力を抜けばいろんなことが見えてきました。

「プライドがストレスを生んでいたのですね」池松さんは当時を振り返ります。「あとはどぎゃんかなるだろう」。気付くと、自然な形で仕事と向き合うことができるようになっていました。

壁にぶつかること、人として本当のやさしさが生まれる。壁を乗り越えられることができたのは、本のおかげだったと池松さんは懐かしく思い返していました。

本のメリット いつも共にあった

○A機器メーカーに就職した後に、父の安春さんが池松機工を創業します。「わたしは後を継ぐつもりは無かったんです。自分は自分の道を行く」と思っていました」と池松さんは振り返ります。しかし、父から会社を継いで欲しいと言われます。

池松さんには持論がありました。「親の思いにそった生き方をしないとうまくいかない」という考え方です。

「親がいるから自分の命がある。会社は多くの社員がいます。後継者を親が希望している

のであれば：それが正解だろうと思いました」。池松さんは、惜しまれながらも前の会社を辞め、父の思いを受け継ぐために池松機工へ入社しました。親を敬い、親の心に沿うことの大切さも本から教えられたことの一つだといいます。

一つ目の会社を辞めた後、勉強した際も高校時代の参考書を使って電子、電気の基礎を勉強してきた池松さん。本はいつも池松さんと共にありました。

池松さんにとって本の役割は

読んだ本には思いが詰まっています。昔聞いた音楽を聞くと当時の思い出がよみがえってくるように、その本を読むと当時の考え方を思い出すことができます。

池松さんは、「本を読むと、その当時判断したことが思い出されます。本は多くの積み重ねられてきた経験とともに、わたしにとって大切な財産になっています」とその魅力を語ります。社長として多くの判断をし、決定しなければなりません。その際に、本は自分の背中を押してくれます。本から先人の哲学や知恵を得て、自分を見つめ、何が必要なのかを考えることで決断を下すことができます。

「20、30歳代のときには、著名な人と会えることは滅多にありません。その時期にそのような人たちの考え方に触れることができるのは本なんです」と話す池松さん。多くの決断するために悩み抜いたから言える重みのある言葉です。人は、多種多様な考え方があることを知って、自分の個性が確立されていくのでしょう。



Yasuhiro Ikematsu
(株)池松機工代表取締役社長

池松 康博さん

昭和31年 熊本市生まれ
熊本工業高校機械科を卒業後、会社勤務を経て、平成5年(株)池松機工に入社。
平成20年同社代表取締役社長に就任。
平成22年からは大津町企業連絡協議会会長も務める。妻と娘の三人家族。
趣味はゴルフ、野球観戦。